

はじめに

まず、これまでの出題概要と傾向をおさえておくと・・・

今回も基本テキストが絞られており、『神社のいろは(続)』のウエイト(比率)が大きいのがポイント
『皇室』誌も10問あり、狙いも絞りやすい(コンスタントに必ず出題されるため、できれば落したくない)
長文問題が多く出題されているのが2級の特徴であり、前回も多かったが、今回も多いと見てよいのでは？

(表1 これまでの出題概要)

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
『神社のいろは(続)』	42問	44問	50問	60問	60問	60問
『遷宮のつぼ』	43問	40問	—	—	—	—
『神社のいろは』	5問	10問	—	—	—	—
『神話のおへそ』	5問	—	11問	10問	—	—
『日本の祭り』	—	—	29問	—	—	—
『万葉集と神様』	—	—	—	20問	—	—
『神話のおへそ(古語拾遺)』	—	—	—	—	30問	—
『神話のおへそ(日本書紀)』	—	—	—	—	—	30問
『皇室』誌	5問	6問	10問	10問	10問	10問

(表2 出題傾向)

出題傾向 (『神社のいろは(続)』)

	第1章①	第1章②	第1章③	第1章④	第1章⑤	第1章⑥	第2章	合計
第2回	2	6	4	11	14	2	3	42
第3回	3	16	7	9	5	3	1	44
第4回	11	17	7	8	6	1	0	50
第5回	9	7	5	14	16	4	5	60
第6回	3	7	7	15	14	6	8	60
合計	28	53	30	57	55	16	17	256
出題平均	4.7	8.8	5.0	9.5	9.2	2.7	2.8	42.7

第1章

- ①縄文～古墳時代の神道 14－29
- ②律令時代(奈良) 30－57
- ③平安時代 58－85
- ④中世(鎌倉～室町) 86－115
- ⑤江戸時代 116－145
- ⑥近現代 146－163

第2章 164－205

過去5回をみると、おおよそ奈良時代、鎌倉室町の中世思想、江戸時代の国学・神道思想にかかる出題が多い。問題としては、256問出題済み。前回も前々回同様、中世・近世が中心に出題されたが、近世、中世以

外は、第1章の①～⑥の各時代から均等に出題されたことが一つの特徴であるが、ここ2年は、第2章の出題傾向が増加していることが一つの特徴でもある。出題対象となる神社の説明（基本情報）については、押さえておきたい。

(例) 第2章の最初…大神神社

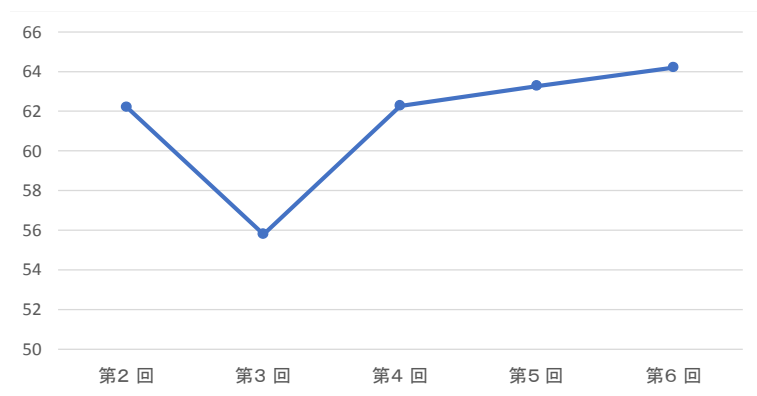
いつ創祀され、御祭神は、どこに鎮座し、どんな由緒や祭りがあるかなど。

今回は、中世や近世が控えめとなり、第3回、4回で多く出題された古代方面に戻るか？それとも近世・近現代が出題の中心となるか？（大嘗祭が来年斎行されるため、古代の律令制と神祇祭祀にかかる問題や、世界遺産に百舌鳥古墳群などが申請される予定でもあり、沖ノ島と宗像三女神など古代の天皇関連の問題も出題されてもおかしくないのでは）

とはいえども、今回もこれまでの問題（過去問）をもう一度チェックすることから始めるべき

過去問はどれをチェックすべきか・・・4～6回目あたりの過去問（『神社検定問題と解説』扶桑社）を必ずチェックしては？

(図1 平均点の推移)



●基本テキスト『神社のいろは（続）』について

各トピックをうまくとらえるためには

＝必要な事項を数珠つなぎで覚えていくためのイメージをどう膨らませるか

*これまでの2級の検定試験

…文章が登場して其の中から、穴埋め、文字に下線が引いてあり、その内容について、四択あたりで問う問題が非常に多い

2級については、いわゆる短答式はあまりない。過去問では、正誤を問う間違い探し系問題も多いが、出題傾向を変えてくる可能性も。

(例) 昨年の2級 問27～32 中世神道について問うている問27～問32をみると・・・

吉田兼俱のことについて書かれた以下の文章を読んで問27から問32までの設問に答えてください。

祠官側からの神道説として提唱された伊勢神道は、吉田神道へとつながっていきます。吉田家の本姓は卜部で、その後、古典の研究をもって家職とするようにもなり、卜部兼方が編んだ『日本書紀の注釈書であるア』はその代表的著述です。

兼俱は応仁元年（1467）に神祇権大副となりますが応仁の乱が勃発します。この時期においても、兼俱は幾人かの弟子に神道伝授を行っています。文明8年（1476）には、神祇伯を世襲した家柄であるイに対抗して「神祇管領長上」などと称しました。

兼俱は吉田社近くの吉田山上に、日野富子の援助を受けて「太元宮」を建立します。太元宮には主神である太元尊神ウと天神地祇八百万の神が祀られています。ウは『日本書紀』（本文）で天地開

關のときに最初に現れた神様です。

自分の神道説を兼俱は「エ」などと呼びました。また、「オ」も祀られた主張しました。仏教が日本で広まるのは、その根本である日本に帰ることだと理解していたからです。

兼俱は「カ」と「キ」も発行し始めます。これが吉田神道説を全国へ広め、権威となっていく契機になりました。

例えば、これを改変してみると・・・

↓

祠官側からの神道説として提唱された伊勢神道は、吉田神道へとつながっていきます。

吉田家の本姓は「ア」で、その後、古典の研究をもって家職とするようにもなり、卜部兼方が編んだ『日本書紀』の注釈書である『積日本紀』はその代表的著述です。

兼俱は応仁元年（1467）に神祇権大副となりますが応仁の乱が勃発します。この時期においても、兼俱は幾人かの弟子に「イ」を行っています。文明8年（1476）には、神祇伯を世襲した家柄である白川家に対抗して「ウ」などと称しました。

兼俱は吉田社近くの吉田山上に、日野富子の援助を受けて「エ」を建立します。「エ」には主神である「オ」（国常立神）と天神地祇八百万の神が祀られています。国常立神は『日本書紀』（本文）で「カ」のときに最初に現れた神様です。

自分の神道説を兼俱は唯一神道（宗源神道・元本宗源神道）などと呼びました。また、根本枝葉花（果）実説も主張しました。仏教が日本で広まるのは、その根本である日本に帰ることだと理解していたからです。兼俱は宗源宣旨と神道裁許状も発行し始めます。これが吉田神道説を全国へ広め、権威となっていく契機になりました。

●『皇室』誌についても必ずみておきたい（この10%の解答の正答・誤答が合否を決めるかも・・・大事）

2級については、第2回～第6回まで毎回確実に『皇室』誌からも出題があり、出題の割合についても近年は10%で固定。

今回も10問～15問程度の間で出題される可能性を見ておけばどうか（約10%）。

とくに明年は即位礼・大嘗祭が斎行予定。また、本年は秋に明治維新150年。政府関連施設にてキャンペーンを開始。

これまでは『皇室』誌掲載著名神社の式年の祭祀と神社に関する連載から出題されたが、本年は75号に皇室祭祀について記事が前半・後半に分けて掲載されている。これもぜひ見ておきたいところ

75号 皇室の祈りの原点 皇室祭祀（前半）

皇室の祈りの原点 皇室祭祀（後半）

三峯神社

阿蘇神社

76号 阿蘇神社

神宮祭主に黒田清子様が御就任

77号 明治天皇御親祭百五十年祭を斎行 武蔵一宮氷川神社

78号 神功皇后の聖蹟を巡る

※阿蘇神社、氷川神社あたりは今回の『皇室』誌から出される問題として必須の可能性があるので？

●『神社のいろは（続）』については、

第2回 中世・近世

第3回 古代・中世

第4回 縄文～古墳時代・古代

第5回 中世・江戸時代

今回は、古代中心に回帰するか、あるいは近世・近代が出題されるか？

難易度は前回と同様ぐらいとみておくのがよいか。

過去問をもう一度解いておくとよいのではないか。

＊数珠つなぎでみておく＊

例) 吉田神道 いつ頃できた神道思想か

創始者…吉田兼俱 どんな特徴があるか？

三社託宣＝三社は？ その託宣の内容は？

根本枝葉花実説とはどんな説か？

…吉田家は？ 関係する神社は？ 齋場所・太元宮とは？

神祇管領長上とは？ 神祇官八神殿とは？

…白川家との関係は？

吉田神道の特徴を知ることが⇒古代の神祇官、近代の宮中三殿の神殿に至るまでつながっていく

1. 『続 神社のいろは』について

神道史の流れ・概略を知る

神代 → 古代 → 中世 → 近世 → 近代 → 現代

○神道史の流れのなかで大きな視点で考えてみると…

- ・ 記紀 三大神勅（天壤無窮 宝鏡奉齋 齋庭稻穂）神籬磐境の神勅
神籬 磐座 磐境 御ト（亀ト）
- ・ 律令制と神祇官
- ・ 神仏習合と神仏分離 …本地垂迹説、反本地垂迹説
- ・ 社格制度の変遷 古代・中世・近代・現代
官幣社・国幣社 延喜式内社 二十二社 一宮制 総社 近代社格制度 別表神社
勅祭社 荘園制と神社（御厨）
- ・ 様々な神道思想の登場
伊勢神道 神道五部書 中世神道 吉田神道 三社託宣 儒家神道 垂加神道
国学 復古神道
- ・ 神社制度を考える上で
神祇令 御成敗式目 神社条目（諸社禰宜神主等法度） 神道裁許状
吉田家と白川家
- ・ 近代の神社と神道
神祇官の復興 大教宣布運動 教部省 神社は国家ノ宗祀 神社非宗教論 神社合祀

第2章 神社についてもっと知りたい

『神社のいろは』の各神社の信仰の項目で取り上げられていなかった神社について掲載。

大神神社 石上神宮 広瀬・龍田 丹生川上、香椎宮 広田神社 平野神社
梅宮大社 上御霊・下御霊 吉田神社 多賀大社 伊弉諾神宮 吉備津神社
大山祇神社 阿蘇神社 氷川神社 秩父神社 鹽竈神社志波彦神社 出羽三山
岩木山神社 水無瀬神宮

2. 『神話のおへそ（日本書紀編）』のテキストについて

（表3 昨年の出題傾向）

- ＊ 1級・3級で出題された問題のレベル的に中間的な問題が出題されるのではないか
- ＊ 昨年の1級、3級の問題を第6回の過去問を見ながらもう一回解いておきたいところ
- ＊ 昨年出題された問題のテキスト（文章題）箇所をチェックしておきたい

（ポイント）

⇒『神話のおへそ』というタイトルの本

今回は2級・中級編…ぐっとレベルが上がる可能性が極めて高い。

ゆえに基本的には出題範囲（対象）も広がる
 今回はおそらく 30 問程度。

表3 出題傾向(『神話のおへそ(日本書紀編)』)

	はじめに	第1章	第2章	第3章	第4章	第5章	合計
1級出題	0	0	16	4	5	6	31
3級出題	0	5	15	10	—	—	30
合計	0	33	9	18	5	6	

はじめに

第1章 26－43
 第2章 44－139
 第3章 140－205
 第4章 206－269
 第5章 270－287

* 3級と比べて出題範囲が広がったところは…第4章・5章

4章と5章は…とくに4章は天皇紀

…神代巻のところについても徹底的に読み込んでおきつつ、昨年の1級・3級の過去問をみておきたい
 (重複を避ける可能性もあり)

第4章の人代巻(神武天皇紀以降)も必ず読んでおきたい

天皇の事績で主要な箇所はチェック

…以外と神社検定としては大事な箇所も多い

(例) 神武東征…饒速日命

崇神天皇紀…倭笠縫邑・檜原神社、大神神社、大物主神…古事記との関係

垂仁天皇紀…神宮の創祀

景行天皇紀…日本武尊と倭姫命、熱田神宮

仲哀天皇、神功皇后紀…三韓征伐

応神天皇紀

仁徳天皇紀

雄略天皇紀…浦島子、一言主神

など

○昨年の参級のポイントと比較してもう一度整理する

＝神代巻(じんだいかん・かみよのまき)の記述

神武東征に至るまでの基本トピックは『古事記』とも同じ

天地開闢・神世七代(神代七代)

八洲起元・大八洲生成(伊弉諾尊伊弉册尊の国生み・神生み)

四神出生章(天照大神の誕生)

瑞珠盟約章(誓約の段)

宝鏡開始章(天岩戸の段)

宝剣出現章(八岐大蛇)

天孫降臨章(三大神勅)

海宮遊幸章(海幸・山幸)

神皇承運章(神武天皇の誕生)

天孫降臨は、三大神勅を含め、まさに皇室が我が国を治らしめる観点からも大きなトピック。

神武東征は、大和に至るまでの過程での失敗も含め、覚える

五章にかかる部分…40ページ(神道古典としての『日本書紀』)をよく押さえておくとよいのでは。